地球科学 64 巻，179 ～ 181（2010 年）
Earth Science (Chikyu Kagaku) vol. 64, 179-181. 2010

小磐梯山，消失前の姿

千葉茂樹*

Kobandai-san, the shape before the collapse

CHIBA Shigeki*

第 1 図　大伴図 A
絵の中に「磐梯山西面」と書かれているが，地形の描画から南側から北西側までを描いたものである．

磐梯火山は，磐梯山・櫛ヶ峰・赤埴山の 3 峰からなる（第 3 図）．「小磐梯山」とは，かつて磐梯火山の頂部に存在した峰で，1888 年（明治 21 年）7 月 15 日の噴火までは山体北側に存在した．しかし，1888 年の噴火の山体崩壊で消失した．この磐梯火山 1888 年噴火の論文は Sekiya and Kikuchi (1889) など多数ある．また，小磐梯山の山容の復元は，米地（1989）ほかにより試みられてきた．

なお，第 1 図，2 図では「大磐梯」「小磐梯」と記されているが，本論ではこれらに「山」をつけて表記する．また，1888 年の噴火で小磐梯山は消失したため，現在では「大磐梯山」を磐梯山と呼んでいる．

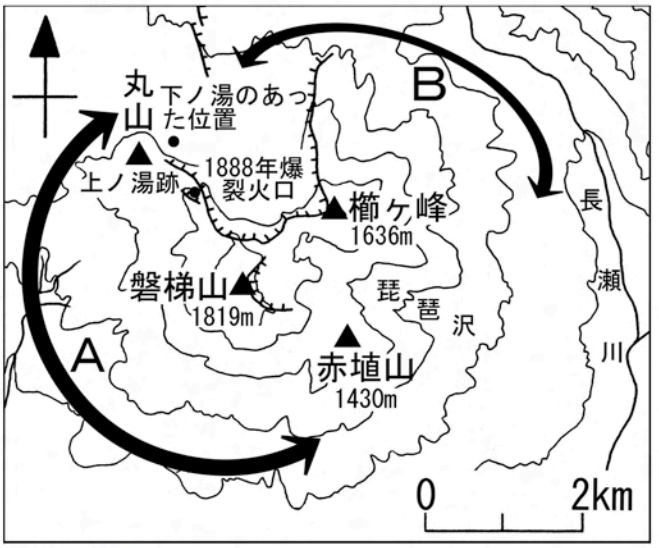
今回紹介する絵は，大伴タキノ氏所蔵の「新編會津風土記」の挿絵である．この「新編會津風土記」（以下，大伴版とする）は，会津藩により 1803 年に編纂作業が始まり 1809 年に完成した（丸井 2000）．

現存する「新編會津風土記」はこのほかにもいくつかあり，

2009 年 11 月 30 日受付．2010 年 8 月 31 日受理．
＊福島支部，福島県立保原高等学校，〒 960-0604　福島県伊達市保原町元木 23．Fukushima Branch, Hobara High School, 23, Motoki, Hobara, Date, Fukushima 960-0604, Japan.

第２図　大伴図Ｂ
絵の中に「磐梯山東面」と書かれているが，地形の描画から東側から北側までを描いたものである．

いずれも写本である．一部の写本は編集・出版されている（花見 1960；丸井 2000 など）．また，福島県立図書館にも手書きの写本が現存する．これらの写本の挿絵は，どの写本もほぼ同じ構図で，黒一色で描かれている．



第３図　地形図.
A・B の矢印は，「新編會津風土記」の挿絵の描画方向を示す．本図は，国土地理院発行 1/5 万の地形図「磐梯山」をもとに作成した.

大伴版は毛筆書き糸綴じの本で，磐梯火山などを記載した１冊のみが現存する．大伴版の本文は，他の「新編會津風土記」と大きな違いはない．しかし，大伴版の挿絵は，細かな地形描写で，彩色されている.

大伴版の挿絵の中で，磐梯火山を描いたものは２点である（以下，大伴図とする．第１図，第２図）．これらの描写は，特定の地点から磐梯火山を描いたものではなく，上空の視点から磐梯火山を絵巻物の様に取り巻いた形で描かれている．また，水平方向に対し，高さが誇張して描かれている．大伴図の１点は磐梯火山の南側から北西側までを描いたもの（以下，大伴図Ａとする．第１図，第３図）で，他の１点は磐梯火山の東側から北側までを描いたものである（以下，大伴図Ｂとする．第２図，第３図）．これらの絵の分析・意義などについては，千葉（2010）に記載した.

第１図は大伴図Ａで，左右見開きの挿絵を合成したものである．この絵には，右に大磐梯山（おおばんだいさん），左に小磐梯山が描かれている．小磐梯山は大磐梯山に比べて，若干低く描かれている．さらに，小磐梯山の山頂部には３つの峰が描かれていると読み取ることができる.

なお，大伴図Ａ（第１図）の小磐梯の下にある家屋は上ノ湯（かみのゆ），そこから左下に続く道をたどると下ノ湯（図中には「シモノ湯」）がある.

第２図は大伴図Ｂである．この絵には，右に小磐梯山左に大磐梯山が描かれている．大伴図Ａ同様，小磐梯山は大磐梯山に比べて，若干低く描かれている．この絵の大磐梯山はゴツゴツした岩山を連想させる描画であるが，小磐梯山は大磐梯山に比べてゴツゴツ感がやや少ない．また，小磐梯山と大磐梯山の間には，大きな沢が描かれている.

小磐梯山の山容を推定するには，現存する写真や絵が重要である．既知の小磐梯山を描いた絵は，会津若松や猪苗代からの描写が多く，他方面の絵は少ない．大伴図は，①磐梯火山を取り巻くように多方向から描いている，②既知の絵には描かれていない方向からも描いている，③地形描写はやや誇張されてはいるがその特徴をよく捉えている（千葉 2010）．以上の理由により，大伴タキノ氏所蔵の「新編會津風土記」の磐梯火山の挿絵は，小磐梯山の山容解明にとって極めて重要な資料であると結論できる.

最後に，小磐梯山の正確な山容解明には，多くの写真や絵が必要である．今後，決定的な資料―裏磐梯方向からの写真・絵など―の出現が望まれる.

謝　辞　大伴タキノ氏には，貴重なお話をいただき，ご所有の「新編會津風土記」の挿絵の掲載許可をいただいた．さらに，編集エディターの佐藤隆春氏，査読に当たられた米地文夫氏，内山　高氏には有益なご指摘をしていただいた．以上の方々に謝意を表す.

文　献

磐梯町歴史編纂委員会（1992）磐梯町史資料編Ⅱ，近世の磐梯町．磐梯町，磐梯，178p.
千葉茂樹（2010）小磐梯山，1888 年噴火前の姿．―大伴タキノ氏蔵，江戸後期の磐梯火山の絵図―．地球科学，64：201-205.
花見朔巳（1960）新編会津風土記第２巻．雄山閣，東京，338p.
丸井佳寿子（2000）新編会津風土記第２巻．歴史春秋出版，会津若松，381p.
関谷清景・菊池安（1889）磐梯山破裂実況取調報告．官報 1575，271-275.
Sekiya K and Kikuchi Y（1889）The eruption of Bandai-san. Jour Coll Sci Imp Univ Japan, 3：91-172.
米地文夫（1989）絵画資料の分析による小磐梯山山頂の旧形と 1888 年噴火経過の再検討．東北地理，41：113-147.